

令和6年度 第3回仙台市GIGAスクール推進協議会 議事録

1 日時

令和7年1月28日（火曜日）

2 場所

仙台市役所仙台市役所上杉分庁舎 12階教育局第1会議室

3 委員

稲垣会長、板垣委員、亀井委員、高橋委員、千葉委員、山田委員（五十音順、全8名中6名出席）

4 事務局

岩城副教育長、蓮沼次長、松川次長兼学校教育部長、西城高校教育課長、
高橋特別支援教育課主幹、佐藤教育センター主幹、堀越学びの連携推進室主幹、
高橋 ICT 教育推進担当課長、大竹教育指導課情報化推進係長、
清和田教育指導課情報化推進係主任指導主事、大黒教育指導課教育課程係主任指導主事、
太田教育指導課情報化推進係指導主事、野地教育指導課情報化推進係指導主事

5 傍聴者 0名

6 内容

（1）報告事項

- ① 第2回協議会の議事録について
- ② 第2回協議会でいただいたご意見について
- ③ 仙台市学校教育情報化推進計画の進捗・評価について
- ④ 1人1台端末の活用状況について
- ⑤ 学校教育情報化推進について

（2）協議事項

- ① 「仙台市学校教育情報化推進計画（令和5～9年度）令和7年度行動計画（案）」について
- ② 「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び」

7 議事要旨

（1）会長挨拶

【稲垣会長】

皆様こんにちは。東北学院大学の稲垣です。第3回の会議よろしくお願いします。第3回ですけれど、今年度としてはまとめの会となります。ただ、昨年末に色々重要な文書が、文科省から出ました。12月末には、中央教育審議会の諮問で、次の学習指導要領をどうするかという議論が早速スタートしました。その中の最初に生成AIという言葉が出てきています。社会全体がそうなっているということもそうですが、学校教育は、特に子供たちが学ぶ、そして先生方が指導していく場なわけですが、人の学習とAIの発達とは切っても切り離せない関係にあります。その中で、例えばいろいろなものがある中で、翻訳とかすごく簡単になってきた世の中で、学校教育をどうするか、そんなことも話題に上がっています。さらに、このGIGAスクール協議会の中で重要になってくるのが、情報教育、子供たちの情報活用能力を、小中高を通して、抜本的に改善するといった方向性が打ち出されています。こういったことを考えていくと、我々協議会がやっていることは、もちろん今現在の目の前の子供たちや先生方にとって必要なことをやっていかなければいけないけれど、これからを見据えた動きを常に考えながら動いていく必要があると思っています。

もう1つデジタル学習基盤という言葉もたくさん出てくるようになりました。1人1台の端末が入って、その更新もだんだん進みつつあって、ただ、それだけでなく、例えば先生方の仕事の効率改善で

あるとか、学校と家庭との色々な連携の強化であるとか、色々なところでデジタルを使うことが当たり前の社会になりつつあります。そのことを、学校の場合はデジタル学習基盤というふうに言っているわけですが、仙台市としてはどういうものを描いて、どんなふうに実現していくのか、どういった部分は実現できてないのか、そういったところを考えていくことも含めて議論していく必要があると思っています。

次に向けた話ということで、いろいろ山盛りですけど、皆さんと議論できればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

(2) 報告事項

①第2回協議会の議事録について／第2回協議会でいただいたご意見について

【稲垣会長】

それでは次第に基づいて進めて参りたいと思います。よろしくお願いします。

では、まず報告事項(1)(2)について事務局から説明をお願いします。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

まず1つ目、「資料1 第2回仙台市 GIGA スクール推進協議会の議事録」につきましては、作成した際に、すでに委員の皆様にはご確認をいただいているものでございますので、説明については割愛をさせていただきます。

続きまして「資料2」をご覧ください。第2回協議会の際に、委員の皆様からいただきましたご意見等をもとに、ご指摘のありました課題と今後の方針についてご説明いたします。いただきましたご意見とその対応に関する詳細につきましては、「参考1 第2回協議会でいただいたご意見について」にまとめてありますので、こちらは後程ご覧いただきたいと思います。

2ページ目をご覧ください。第2回協議会で議論いただいた内容から、4つの課題について説明いたします。1つ目としては、デジタルドリルの活用、2つ目が生成AIの活用、3つ目が教員のICT活用指導力の把握、4つ目が、高校の事例紹介でございます。それぞれの課題につきまして、これまでの対応状況と今後の方針について説明いたします。この他、「個別最適な学び」について、本市の現状や取り組みが見えづらいというご意見もいただきましたが、これにつきましては、後程、協議事項のところで、教育指導課よりご説明をさせていただきます。

3ページをご覧ください。まず初めに、デジタルドリルの活用についてでございます。左側にいただいたご意見をもとに、課題と考えていること、右側にこれまでの対応状況を示しております。第2回の議論においては、子供たちが学習ログを閲覧し、学習ログのデータを活用している事例があるかといったご意見をいただいております。本市で導入しているデジタルドリルにおいて、児童生徒が自分の学習履歴を閲覧する機能はございますが、児童生徒が活用しているという状況は把握してないのが現状でございます。ただ、教員に関しては、児童生徒の学習履歴を閲覧し活用する方法について、周知を行っており、ある程度活用がなされているものと考えております。

4ページをご覧ください。ご指摘の通り、児童生徒が自身の学習履歴を閲覧することで、学習に役立てていくということは「個別最適な学び」の推進に必要なことと考えております。そのため、今後の方針といたしましては、学習履歴の閲覧、活用方法について、児童生徒向けのパンフレットを作成するなどして、周知を進めて参りたいと考えております。また、教員による学習履歴の参照、活用方法についても、改めて周知を行い、児童生徒の学習支援につなげて参ります。これらの取り組みは、「仙台市学校教育情報化推進計画」にある「基本方針1(2)の①個別最適な学びの推進」に資するものであり、教員の活用だけではなく、児童生徒の活用により、効果的な学びの推進につなげて参ります。

5ページをご覧ください。続いて、生成AIへの活用についてでございます。生成AIが様々な場面で活用され始めている現状から、働き方改革などへの応用も含め、生成AIの事例発信を強化すべきというご意見をいただきました。これまでも本市においては、独自の生成AI活用ガイドラインを策定するなど、生成AIの活用に取り組んで参りました。具体の事例としては、記載の通り、宮城野小学校における授業での活用や、教育センターにおける活用の研究などでございます。また、現状を把握するため、各学校に「生成AI研修の状況」「授業での活用」「先生の情報モラル教育の実施状況」などの調査を行ったところでございます。

6ページをご覧ください。こちらが今月に行った生成AIの活用状況等のアンケート結果でございます。すべての項目について「ほぼすべての教員が該当している。」「半数以上の教員が該当している。」「半分以下の教員が該当している。」「該当する教員がほとんどいない。」の4つの選択肢で学校ごとに回答しています。一番上の研修の受講状況につきましては、教育センターで行っている研修や校内で独自に行っている研修についての設問で、半数以上の教員が受講している学校が約36%と低い状態になっておりますが、この他にも、令和5年度には全教員に対して、動画による生成AIの研修を行っております。そのため、その下の「生成AIに関する理解」に関する4つの設問に対しては、多くの教員が理解している状況となっております。しかし、最下段の活用の実態に関する2つの設問につきましては、まだまだ学校現場で活用されているとはいえない状況が確認できました。

7ページをご覧ください。今後の対応といたしましては、昨年末に文部科学省から「生成AI活用ガイドライン」の改訂版が示され、将来的に児童生徒が活用していくことも想定された記載が追加されるなどしております。本市のガイドラインもこれに基づいて改訂を行い、積極的な活用を促して参ります。また、アンケート結果から、教員の日常的な活用まで至っていない状況であることから、事例の収集・周知や生成AIに関する研修の実施などを通して、学校現場における生成AIの活用を広めるところから進めたいと考えております。これらの取り組みにより、教員の情報リテラシーの向上を図り、「仙台市学校教育情報化推進計画」にある「基本方針1（1）③情報モラル・情報セキュリティ教育の推進」「基本方針2（1）①教員のICT活用指導力の研修」をさらに推進して参ります。

8ページをご覧ください。続いて、教員のICT活用指導力の把握についてでございます。第1回のGIGAスクール推進協議会から引き続いて、第2回においても、教員一人ひとりの現状を自身が把握すること、市全体の変化を読み取ることの重要性についてご意見をいただきました。前回と重なる部分もございますが、これまで取り組んできた対応といたしましては、ICT研修で事前のアンケートを行い、ニーズに合わせた研修を行うことや、全体の可視化として、文部科学省の教育の情報化の実態調査の結果を、各課で共有すること、研修体系図の活用について周知を行い、足りないスキルへの研修へつなげるなどの取組を行って参りました。

9ページをご覧ください。今後の対応として、引き続き、文部科学省の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の結果の共有や活用支援、研修体系図の活用促進の取組を行って参ります。また、自身の状況等を客観的に判断するためには、学校という枠を超えた教員同士の繋がり、コミュニティが必要だと考えておりますことから、今年度より実施しているGIGAコミュニティサポートをより充実させ、教員同士が教え合い、互いに研鑽を重ねる場を提供していきたいと考えております。これらの取組により、「仙台市学校教育情報化推進計画」にある「基本方針2（1）①教員のICT活用指導力と研修」をさらに推進し、教員のICT活用指導力の向上につなげて参ります。

10ページをご覧ください。続いて、高校の事例紹介についてでございます。高校を対象とした事例等が少ないため、高校の事例等について発信を強化すべきというご意見をいただきました。現在のGIGAスクールサポートサイトには、高校の事例は6例ほど掲載しておりますが、小中学校と比べると、高校の事例が少ないというのはご指摘の通りでございます。

11ページをご覧ください。今後は、高校のICT活用事例の情報収集にも積極的に取り組み、高校の事例の充実に努めて参ります。また、今年度、仙台大志高校におけるICTの活用について、事例収集を行っていただき、「ICT活用事例集」を作成していただきました。こちらもGIGAスクールサポートサイトへ掲載していただくとともに、この事例集を用いて、他高校へ働きかけ、さらなる事例の収集に取り組んで参ります。これらの取組により、「学校教育情報化推進計画」にある「基本方針4（2）②調査研究及び情報発信」の強化に向け、高校のICT活用を推進して参ります。

以上が、第2回仙台市GIGAスクール推進協議会でご意見等いただきました課題の認識と今後の対応方針についてのご説明になります。

【稲垣会長】

それでは本件につきまして質疑進めていきたいと思っております。資料の中に、宮城野小学校と仙台大志高等学校の名前もありましたので、その状況からお伺いできればと思います。まず、生成AIはどんな感じだったか少しご紹介いただいてもよろしいですか。

【高橋委員】

本校は、学校情報化研究委員会の教員がいるので、教員向けの研修も、授業活用も、その教員がとてもよく推進をしてくれています。先日、生成AIを使った授業も行いまして、委員会の方にも見ていただいております。授業をしている様子を見て、やはりこれから教員が子供たちに生成AIの使い方をきちんと教えることのできる教員の人材育成が急務だなと思いながら、授業を見ておりました。

【稲垣会長】

授業での活用事例も含めて少しご紹介いただきました。具体のところは、おそらく教育センターの学校情報化研究委員会の発表会が2月末にやりますので、多分そこで詳しくご紹介されると思います。それから、高校の事例の方で仙台大志高等学校のお話が出てきましたがいかがでしょうか。

【山田委員】

高校の事例ということで、小中学校に比べて数が少ないということであつたのですが、本校でICTの活用の部分について、少し遅れているというところのスタートから、活用している先生が、普段の授業の中でどういう活用をしているのかというところを、同じ学校の教員がまずよく知ること、身近なところからスタートしていこうというようなところなんです。8月に第1回目の研修会を行って、2名の先生方から、自分の活用の事例を紹介していただきました。その中で、特にリモートの部分について、授業が全員できるようにというところに着目をして研修を行っております。その後、学校の中で、活用が得意な先生方、普段使いをしている先生方の中で、小委員会を作りまして、教頭先生が取りまとめ、活用事例集の作成を目指して、6人の先生方の事例を一本の事例集にまとめております。事例集は、2つの項目で作成しました。1つは、校務に関わる部分の効率化です。特に、教員と生徒と保護者3者で情報共有するために、Google Classroomを活用した校内体制の整備について、情報発信と情報を受け取る側の時間差、eメールだけに頼っていたものについてGoogle Classroomを活用することで、やりとりがスムーズにできるようにするための事例を1つ紹介しています。こちらは本当にスムーズに、eメールと並行した形で行えておりまして、生徒たち、それから教員たちからも非常に好評です。今後さらに、校内の中で問題点等をピックアップしていきながら、ブラッシュアップしていければと考えておるところでございます。また、各教科の授業の中での活用の紹介として、座学だけでなく、家庭科など実習を伴う授業での活用も紹介しております。こちらも本当に大きな刺激になっているところです。完成は1月7日で、1月の職員会議で、今後、みんなで活用していくことを進めているところです。12月に1度、校内での第2回目の研修会を行ったときに少し先出しをし、先生方には大きな刺激となっています。第2回目の研修会の中では、1回目が若手でしたので、2回目の研修会では50代の先生方2人で、ベテランの普段使いの授業の中でICTの活用を紹介していただいて、これもまたベテランの先生方も頑張っているのだということで、校内の中で、聞きやすい雰囲気が醸成されてきたと思っております。高校教育課、教育センター、情報化推進係と関係各所に事例集を提出いたしまして、市内各校にお伝えいただいて、働き方改革のところでも少しでもお役立てできればと考えておるところです。

【稲垣会長】

この事例集は、仙台市のGIGAスクールサポートサイトに載るわけではないという理解でいいのですか。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

今の状況ですと、お名前とか、かなり具体的なことが書いてあるので、内容を高校によく確認のうえ、掲載させていただく予定です。

【稲垣会長】

せっかくなので、そういうのもありかなと思います。あと、確認させていただきたいのが、前半でお話された保護者とのやりとりの話は、良い事例かなと思いますが、仙台市の場合は、小中学校は「まなびポケット」ですが、高校は入っていないという理解でいいのでしょうか。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

高校は、それぞれ独自で、状況に応じて、統一は特にはしておりません。

【稲垣会長】

高校に関しては、色々なやり方がある中で、大志高校では、Google Classroomも使ってみたという事例ですね。ちなみに、保護者をご覧になれるときは、生徒のアカウントで見ているのか、保護者も

入るような形になっているのか、どんなふうにされていますか。

【山田委員】

現在は生徒のアカウントで、一緒に見るというような形をとっております。並行してメールでの情報の発信もしていますので、保護者はeメールを見て、あとは必要に応じて、添付でプリントも送付しておりますので、生徒のアカウントから見ていただくという形で行っています。

【稲垣会長】

そうすると生徒のアカウントで端末を持ち帰って保護者が見たり、ご家庭の端末で生徒アカウントでログインしてみたりとかそういう感じですね。なかなか高校生になると、保護者の方と一緒に自分のアカウントで見るとするのはためらいがちのところかもしれないですが、保護者とお子さんの間でコミュニケーションの助けにもなるのかなと、そんな面白さがあるのかなと思って聞いておりました。

【板垣委員】

6枚目のところの、生成AI活用アンケートの結果ですが、ここを拝見してご説明の中にもあったのですが、「生成AIへの理解」と「活用の実態」で2つに分かれていて、「活用の実態」の方がまだ高くない状況について、「生成AIへの理解」の結果がこれだけ高く、そして「活用の実態」が低いということの繋がりを持たせるということが1つの課題になろうかというところなんです。先ほど宮城野小学校の話とか、昨日、岩切中学校で、生成AIを活用した授業が行われています。そういったのを、どんどん発信していけるといいかなと思ったのが1つ。あとは、やはり校務での利用というか、先生方が、とりあえず触ってみるみたいなのが、入口として大事かなと思っておりまして、この項目だと校務での利活用となっていますが、多分その前段階で、「触ったことありますか。」という段階もあると思っています。それは業務上であってもいいですし、もっとラフな使い方でもいいと思うのですが、そういう段階もあるかなと思っていて、そういうところから先生が慣れて校務でも使って、授業でどう活用していけるかというような流れが進むと思っています。

もう1つ、この「生成AIへの理解」の項目の一番下に、「情報モラル教育の実施」がありますが、これがどういうふうにとらえられているのだろうというのが1つです。子供たちに情報モラル教育、この文脈で言うと、生成AIに関する情報モラル教育の話だと思うのですが、これがもしかしてこんなに高いのであればもっと学習での利活用がもっと進んでいてもいいではないかというような気がしていて、そうなったときにこの情報モラル教育が、生成AIに関するものだけじゃなくて、生成AIが出てくる前から言われていたような情報モラルと混同されているか、どちらも大事だとは思いますが、今回の尋ねたい趣旨からすると、もしかしたらずれているのかなというふうに思っていました。やはり生成AIに関する情報モラルは今までのICTと比べると少し独特な部分があるので、そういった部分の教育がどれくらいできているかということを探ねたかったのかと思うのですが、回答した先生方に伝わっていない、もしくは、そういう生成AI独特の部分があるということの情報モラル教育が必要だということの認識がまだ保たれていないというような可能性もあるのかなと思いながら結果を拝見しておりました。良質な情報モラル教材ですと、こういった時代の流れとか新しいテクノロジーの向上に合わせて、どんどんコンテンツが充実されているようなものもありますのでそういったものの予算化も含めて、利活用を検討するなど対応が考えられるかなと思います。

【稲垣会長】

情報モラル教育の中での生成AIという話でしたが、仙台市で導入している情報モラル教材はどうなっていますか。

【事務局_高橋 ICT教育推進担当課長】

主に「みやぎ情報活用ノート」などを活用しております。

【稲垣会長】

市販ものは入っていない状態ということですね。市販のものと、例えば、どの教材使っているかといったログも取れたりするので、生成AIに関する教材をどのくらい使っているかといった確認もできます。「みやぎ情報活用ノート」は、もう随分古いですし、生成AIには対応できてない状況になっておりますので、そこを含めた見直しと確認を進めていただければ良いかと思います。

では続きまして、報告事項2の(3)に進みます。事務局からお願いします。

②仙台市学校教育情報化推進計画の進捗・評価について

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

「資料3」をご覧ください。本市の教育情報化に関する進捗評価についてご説明いたします。

2ページ目をご覧ください。先ほど会長からもありましたように、今年度最後のGIGAスクール推進協議会となりますので、「仙台市学校教育情報化推進計画」に定める評価指標の令和6年度の状況についてまとめたものと、「令和6年度行動計画」の進捗評価の2点について説明いたします。

3ページをご覧ください。まず、「仙台市学校教育情報化推進計画」に定める評価指標について説明いたします。1つ目は、児童生徒を対象とした情報活用能力意識調査の結果でございます。児童生徒へのアンケート結果から、AからDに記載されている4つの項目について、肯定的な回答を行った割合を示したものです。目標は、令和9年度において、AからCが約90%程度、Dについては100%としております。令和6年度の調査においては、すべての項目について肯定的な回答が増加したという結果になりました。特にCの「プログラミング」については、プラス10.2ポイントの増加と大幅な上昇が見られます。これは、設問を、児童生徒が理解しやすいように一部表現を変更した部分があるため、それにより上昇したものと考えております。とはいえ、まだまだ目標の数値には至らない状況でありますので、今後も児童生徒の情報活用能力の育成のため、尽力して参ります。

4ページをご覧ください。次にプログラミング教育に関する目標です。こちらは学校へのアンケートにより、「教科等横断的に実施したもの」「全学年で実施したもの」「総合的な学習の時間に実施したもの」など、いくつかの項目を示し、いずれかを実施した学校の割合を令和9年度に100%にするという目標となっております。小中学校とも、昨年度の調査に比べて上昇しており、特に中学校では12.5ポイントの増加がございました。これは先ほどの児童生徒のアンケートと同様に、より具体的な実施状況を選択する方式に若干変更したことにより、学校の実態に合った回答ができたことによる数値の上昇と考えております。こちらは令和6年度の目標に向けて、順調に進んでいるものと考えております。

5ページをご覧ください。続いて、教員のICT活用指導力の状況に関する目標でございます。こちらは、文部科学省がそれぞれの教員を対象として行っている調査について、仙台市分を独自集計したものでございます。最新の令和5年度の結果では、令和4年度と比べて、AからCの項目につきましては、微増という結果となっております。やや低い数値となっている、B、Cの項目を中心として、教員のICT活用指導力の向上のため、さらなる支援を行って参りたいと考えております。

6ページをご覧ください。続いて（3）環境整備の効果状況についてでございます。こちらは学校単位で「教育データの利活用が児童生徒の指導に生かされているか。」を回答してもらったもので、令和6年度では83.6%と、6.5ポイントの減少となっております。また、今回から高校も調査対象に含めておりますが、高校も含めた数値は82.8%となっております。これは質問項目の補足説明で、デジタルドリルの活用が中心になっていたのですが、昨年9月から導入した校務支援システムダッシュボードのデータ利活用を含めた説明としたことから、まだダッシュボードを十分活用できていない学校の回答が影響したのではないかと考えております。ダッシュボードは令和7年度から本格運用となりますので、この活用支援も含めて進めていく必要があると考えております。

また、下段（4）仙台市の取り組みについての理解の状況につきましては、保護者への任意のアンケートを実施し、「仙台市のGIGAスクール構想に関する取り組みを知っているか。」という認知度について調査を行った結果でございます。令和6年度では94.1%、昨年度に比べると14ポイントの増加となっており、保護者にも、GIGAスクール構想に関する取り組みが認知されてきている結果と考えております。今後も保護者の皆様への周知を十分行って参りたいと考えております。

7ページをご覧ください。ここからは、「仙台市学校教育情報化推進計画」に基づく令和6年度の行動計画の進捗評価について説明いたします。

8ページをご覧ください。こちらは第1回GIGAスクール推進協議会でご説明いたしました、令和6年度行動計画に定めた端末活用目標です。小学校高学年以上では、授業以外の活用も含め、1日3回以上程度の活用を行うことを目標としておりました。

9ページをご覧ください。こちらは授業を担当する全教員を対象とした端末活用に関する悉皆調査の結果をもとにまとめたもので、それぞれの1週間の持ちコマ数のうち、ICTを活用したコマはどれくらいあったかを調査し、1日当たりの活用回数に換算したものでございます。表示されている全校種にお

ける結果では、1日に2～3回程度以上の活用を行った教員が4割程度と、徐々に増加しており、端末活用が進んでいる状況がうかがえます。

10ページをご覧ください。こちらは、小学校分でございます。小学校は高学年、中学年、低学年で目標が異なりますが、すべての学年において、前回の調査と比べて、目標としている活用回数を超えている教員が増加しているところでございます。

11ページをご覧ください。こちらは中学校分でございます。中学校における目標を概ねクリアしている、1日当たり2～3回程度以上の割合がわずかに増加しているところでございますが、ほぼ横ばいで、3割強という、低い割合となっております。全体で見ますと、0～1回の部分や、1～2回の部分も割合が増えており、活用は徐々に進んでいる状況ではございますが、中学校における端末活用については、課題がある状況となっております。

12ページをご覧ください。令和6年度の行動計画につきましては、多くの項目を掲載しており、それぞれについて進捗状況評価をまとめており、そちらの詳細につきましては、「参考3 令和6年度行動計画進捗評価」にまとめておりますので、後程ご覧ください。

以前より、行動計画の項目が大変多いため、学校の負担になっているのではないかと、項目の削減についても検討すべきとのご意見をいただいております。そのことから、今回の評価におきましては、目標達成したと評価したものについては、継続的に取り組みを行っていくものの、次年度以降の行動計画からは、記載を外していくことを検討しております。今回目標達成したと評価した項目は18項目あり、そのうち比較的大きな項目について、4項目ご紹介いたします。

まず、「基本方針1」に関する項目で、「情報セキュリティ研修」についてでございます。情報セキュリティ・情報リテラシーの向上は、さらに情報化が進む社会において非常に重要なものと考えており、定期的な研修により意識を高める必要があります。すでに教育委員会の研修や校内研修等が定期的に行われる状況となっており、十分定着してきたのではないかと評価しております。

次に、「基本方針2」に関する項目として、ICT支援員による支援事例集の作成、発信がございます。ICT支援員の配置は3年目を迎え、学校支援の事例についても充実してきており、GIGAスクールサポートサイトへの掲載他、周知も進めているところでございますので、目標を達成していると評価しております。

13ページをご覧ください。「基本方針3」に関する項目として、「ネットワークの回線強化」と「定期的な調査」についてでございます。前回、第2回GIGAスクール推進協議会でも説明させていただきましたが、昨年8月から9月にかけて、ネットワークの改善に取り組みました。その結果、全体的な強化が図られ、学校における通信環境が改善されたと考えております。また、定期的な調査についても、RPAを利用して、あまり手間をかけずに、現行のネットワーク速度を継続できるようになっております。今後も検証を進め、さらに改善を図って参ります。

「基本方針4」に関する項目として、保護者連絡ツールの活用事例の紹介でございます。先ほども少しありました通り、令和6年4月から市立の小中学校においては、保護者連絡ツールの統一を図っております。活用方法等の周知などから、現在では十分に各学校で活用が図られていると評価しているところでございます。

以上が仙台市学校教育情報化推進計画及びそれに基づく令和6年度行動計画の進捗評価についての説明になります。

【稲垣会長】

いろいろなデータが出てきましたけれども、これらについてご意見ご質問等ありましたら、皆様お願いしたいと思いますので、いかがでしょうか。

情報活用能力の話がありました。プログラミングとかすごく上がっているところがありましたけれども、設問が変わったという話がありましたので、何も書かないと、自然に上がったと見えてしまいますので、印を付けるとか、何らかの対応を行った結果として上がりましたということは、公表する際にはチェック入れといていただくと良いと思います。

教員のICT活用指導力、5ページのところは、ちょっとずつ上がってきてはいるのですが、実は全国平均と比べると情報モラル以外全部下回っている状態ですね。そのあたりは、正直あんまり褒められた状況ではないというのも実際のところですので、強化が必要なのかなと思います。活用頻度

の話も出てきておりましたが、若干の評価が難しいなと思ったのが、10ページのところなのですが、2月と10月での比較をされているわけですが、2月だと前年度の最後の辺りということになります。そうすると、低学年の場合は特に最初の頃は、あんまり使ってなかったのだけれども、現場を通してだんだん上がってくる状況が反映された可能性もあると思うと、10月時点での比較はどうしても下がってしまうというか、そういう傾向があり得るなと思います。例えばもう1個前の令和5年度のときのデータと比べてどうなのかと。5年度の例えば9月10月だったりとかと比べてどうなのかとかその辺って何か確認する方法ってあったりしますでしょうか。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

9ページにある通り、その前の段階で、令和5年の9月に同じような調査を行っておりまして、例えば、ちょっと1ヶ月ずれていますけれども、5年9月と6年10月といったような比較は可能でございます。

【稲垣会長】

可能であればそういった情報を載せといていただいた方がより良いのかなと思います。小学校の状況で考えたときに、低学年の子供たちの使い始める時期とか、慣れてく経過を考えると、どんな感じかコメントいただいてもよろしいですか。

【高橋委員】

1年生と2年生では大きな差があると思うので、今、稲垣先生のお話を聞いていて、確かにこのざっくりしたデータでは、1・2年生に関しては、増えたとか減ったとかは言い切れないなと思いながらお話伺っていました。

【稲垣会長】

整理されるとき1つの視点として、御配慮いただければと思います。最後に行動計画の話も、目標達成した項目を挙げていただいたところもよかったかなと思います。少なくとも、行動計画の項目がたくさんある中で、着実に進んでいる部分と、まだ課題として残っている部分の両方があるわけですが、終わったものに関してはどんどん片付けながらやってくと、達成感があるというか、進んでいる感じがしていかなと思います。全部で18項目あったと話がありましたが、例えば、今後、管理職や教育委員会の中で、この進捗状況を確認するときに、これらに関してはもう終わっていますよというリストみたいなものを付けていただいて、これはもう過去の話だから、それについて何でその学校やっていないですかみたいな話を、逆にツッコミ返すぐらいの形で仙台市としては推進しているのだということをしっかり伝えていただけるとよろしいかなと思います。

【亀井委員】

今、色々ご説明をいただきました中で、達成をされた項目として4項目お話をいただいて、確かに我々、保護者が普段のツールとして、連絡のツールであるとか、そういったものは非常に、メールだけではなくて状況が分かるというようなことも可能性を感じられるような状況になってきたというふうには感じております。ICT支援員というお名前、名称が出ておりましたが、学校の中でサポートしていただける方っていうのが、教員の中にそういう方がいらっしゃるという理解でよろしいですか。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

こちらはですね、教育委員会が委託事業として、教員ではないのですが、ICTの技術をある程度持った方を、それぞれの学校に週1回程度派遣しておりまして、それをICT支援員という形で呼んでおります。

【亀井委員】

では常駐じゃなくて、ある程度の範囲の中で、そういうことをやっていた方がいらっしゃるということですね。PTAの中でもやっぱりそういう活用であるとかそういったものをやろうとすると、なかなか保護者の中でもリテラシーのばらつきというのが大きく、先生方の中でも非常にあるのかなと感じていたのですが、そういったサポートをしていただけていることを逆に我々保護者の中でも情報として広く周知をして、知っておくっていうこと自体は安心感にも繋がるのかなと思いますので、何らかの形で機会がありましたら、ちょっと説明してみたいと思います。

【稲垣会長】

今、PTA のお話もありましたけれども、例えば PTA やコミュニティスクールもそうなのですけれども、学校と密接にいろんな活動をやっていくときに保護者の皆さんが、何かしら、例えば Google Classroom だったりとか、色々なサービスが使えるかという、なかなか使えない状況にありますよね。結果的に PTA の方もそうだと思いますし、コミュニティスクールもそうですけれども、割と保護者間で無理に LINE グループ作っていたりとか、そうすると先生方は入れないとか、結構そういうところがあって、ある意味その学校と地域とか、学校と家庭の連携のところの DX がまだ滞っているところがあると思います。その辺りは、ぜひ進めていけるような方策が出てくるといいかなと思いました。

それからもう 1 個、「基本方針 2」のところの ICT 支援員のところで、サポートサイトの話がありました。サイトを実際に拝見すると、確かに事例はある程度数はあがってきているのですけれども、この事例集は役に立っているのかどうかというところです。その辺りの確認は、多分これからかなとは思いますが、割と抽象的な感じの記載で止まっていますし、先生方が事例を探そうと思ったときに、検索ができないとか、まだ課題はあると思っています。事例集を集めるという目標は達成でいいと思いますが、それをちゃんと使えるものにしていくことに関しては、今後考えていくといいのかなと思いました。それと、生成 AI のページがリンク切れしておりましたので、直していただければと思います。

続いて、報告事項 2 の（4）について、板垣委員からお話しいただきたいと思います。

③ 1 人 1 台端末の活用状況について

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

先ほどの、端末利用率のデータにつきまして、板垣先生に統計的な手法で分析をしていただいておりますので、そちらについてご紹介をいただきたいと思います。板垣先生よろしくお願いたします。

【板垣委員】

先ほどの資料の中でも、低学年・中学年・高学年と中学校というのは、データがありましたが、それをもう少し細かく、学年別や教員の年齢などと組み合わせるに見てみましたというところです。これは、学年ごとに活用の状況を見てみたもので、先生方によって授業の持ち時数が違うので、持ち時数と端末を使った時数とで割り算して、学年ごとに平均、その割合をグラフにしたものです。0.2 刻み 20% 刻みで、1.0 というのは毎時間使っています、0.8~1 は 8 割以上ぐらい使っています、という見方をいただければと思います。ご覧いただくと、1 つ分かるのは、小学校では、学年とともに利用率が上がっています。例えば、青いところ 1.0 のところを見るとだんだん上がっていったり、赤いところ、0.8~1 も上がっていったり、一番右の 0.0~0.1 は減っている、ということが見て取れて、学年とともに積み重ねがあるということが成果といえるかなと思います。

一方で中学校 1 年生、小学校 6 年生から中学校 1 年生のところでもストンと下がってしまうというのは実態として伺いました。青い 1.0 のところを見ると、大して変わっていない。逆に水色の 0.0 で、ほとんど使っていない方がぐっと増えてしまうというところで、使っている先生方とそうでない方との二極化という実態が伺えました。あとは、中学校は、学年とともに上がっていくというような様子もそんなに見られず、横ばいかなということで、このあたりは 1 つ改善できそうなポイントかなと思って見ていました。あとは、小学校の積み重ねがあるとはいえ全体的に高いとは言えない、というところで、小学校の 5、6 年生を除いて、この緑の 0.4 から 0.6 が大体半分ぐらい使っている先生方だと思うのですが、ここが 50% を割っているのもっと活用が進んでもいいのかなと思います。

小学校で言えば、積み重ねがある中で、それをベースにどんどん増やしていけるような、もしくは各高校においては、少してこ入れが必要な状況なのかなと思います。

次のスライドでは、横が年齢、縦が教員経験年数で見た利用率なのですが、色は、数値が高い方が濃くなるようにしているのですが、薄い方は数値が小さいということなのですが、こういうふうに眺めてみると、若い方が比較的使っている傾向がまず見られて、あと 20 代 30 代は経験年数が長い方が濃く色が濃くなっている。つまりよく使っているといった傾向が見られています。あと 40 代 50 代のあたりが少し興味深かったのが、1 年目とか 2~5 年目のような、経験が短い方が、色がちょっと濃くて、そのあと、6 年目~10 年目、11 年目~15 年目のあたりが少し数値下がっていて、そのあとまた 16 年目以上になっていくと、またちょっと濃くなって、つまり利用率が上がってという状況が見られました。

この辺りを考察すると、例えば経験が少ない人は、自分の力だけだとどうにもできないので、ICTの力を借りたいと思って使っている。そして、経験がそこそこあると、従来のやり方で授業ができてしまうので、ICTを積極的に使っていないのかなと。さらに経験が多くなってくると、余裕も出てきたりして、上手に使う活用とかも考えることができて、また活用率が上がるのかな、ベストミックスを考えられるのかなと、そんなことを考察してみました。

全部をまとめてみると、必要なこととしてはやはり、ICTに慣れている若い先生が多分、普段の私生活で子供の頃から使っている、慣れている方々だと思うので、そういうICTの慣れと授業経験の両方がやっぱり必要なのだろうなということや、従来の方法で授業ができてしまっているということについては、従来の授業観からの脱却は必要で、「個別最適な学び」を実現しようとすれば、子供の数と先生の数が同じだけいて、マンツーマンでできていれば、ICTがなくても個別最適に学習できるかもしれないですけど、そうではないので、やはり1人1台端末の活用はしないと、今求められている授業にはならないかなと思います。

あとは、60代の先生方への手だてと書きましたが、この表の一番右のところですね。色が薄いところが目立っているわけですが、定年退職の年齢も変わっている中で、60代先生方への協力っていうのも必要かなというところですね。

あと、次のスライドですが、その他として書きましたが、活用場面ごとにも尋ねている調査だったので、例えば「自分で調べる場面」「情報の整理・分析する場面」「まとめ・表現する場面」で使わせるかとか、「先生と子供のやりとりで使っている」「子供同士のやりとりで使っている」といった項目があったのですが、これも学年ごとに集計はしてみたのですが、最初にお伝えしたような傾向で、小学校で積み重ねが見られたり、中学校で下がってしまっているような傾向は、およそどの活用場面についてもいえる結果でした。あとは、「調べる場面」は使いやすいのか、比較的高かったり、逆に「先生と児童生徒のやりとり」が少なめだったりというような場面による多少の差は見られました。この辺りは、授業の中で使いやすいところから使っていくということだと思うので、まずは、そこが入口かなと思っています。

中学校における教科別の活用頻度も出してみました。右の下のグラフです。やはり教科の内容によって、例えば技術科はそもそも情報の内容、プログラミングの内容が含まれているので、学習内容に応じた活用は当然あるかなと思います。それは教科の特性が含まれる部分ですが、逆に、教科の内容じゃなく、学習方法として、こういうツールを使うとしたときには、あまり教科の特性にはよらず、汎用的なものだと思って、これまでの授業から、令和の日本型学校教育と言われているような授業に変わってきたときに、教科の内容によらず、汎用的にどの教科でも同じように使うみたいなことができるようになっていくのかなと思うと、このグラフの凸凹も少なくなっていくのかなと思っています。統計的な分析も色々やってはいたのですが、まずは全体の傾向として、こちらの方が分かりやすいかなと思ってこのような報告にさせていただきました。

【稲垣会長】

学年ごとの細かい傾向を出していただいたのですが、2枚目のグラフで見ると、高学年までは上がっていて、そのあと中学校で落ちている様子が非常によく見えているところであります。実は、中学校から高校でさらに下がってしまうのですが、子供たちの日常の中でのメディア利用を考えると、この傾向とは全く違う状況になっているわけですね。小学校からだんだん上がって中学校、高校とさらに上がっていくっていう。そういった中で、学習の利用だけが下がるという状況になっていますので、この辺りをどう埋めていくかが非常に大きい課題なのかなと思っております。そう思ったときに、最後のスライドが典型的に出たのかなと思いますし、板垣委員からもありましたが、汎用的な使い方、要するにこの教科のこの単元で効果的に使うといいよというのを、かつては議論していたわけです。それは、ICTが限られたものであって、必殺技のように使うしかなかったのじゃないかなと思います。今、子供たちが当たり前に使っているわけですね。何か特別な使い方をするのではなくて、本当に日常の道具として当たり前に使っているようになります。その部分が、中学校、高校に関しては、定着してないのではないかというところが、この結果からも指摘できるんじゃないかなと思います。ちなみに、家庭科では、中学校2年生だけやたら高いですね。理由などは分かりますか。

【事務局_松川次長】

はっきりしたことは分かりませんが、私の子供が技術はすごく使っていると言っていました。技術の先生がプログラミングサイトを自分で作って、課題を毎時間出して、それに答えましょうと。家庭科も家庭科の先生が結構積極的に使っているという話をしています。色々な実習系のものが伴うと思うのですが、あと、家計とか、テキストで入るようなものとかもあると思うのですが、社会と繋がる部分の学習が多いような気がするので、そういう機会が多いのかなと思います。実習のものとかも、かつていろいろあったように、効果的に見せるためにというのも、当然今までもやっていると思いますが、活発になるのは、中2というのは、ちょうど受験より前っていうのもあって、カリキュラム上もそういった活動はしやすいところなのかなっていう、ちょっと親の立場も含めてありますけどもそう感じます。

【稲垣会長】

もしかすると、そうすると単元特性的な意味合いもあるのかもしれませんが。いずれにしてもそれが結果として出てしまうぐらい、汎用的な活用という意味ではまだまだ課題があるというところなのかなと思います。

高校に関して何かコメントいただけますか。

【山田委員】

一定量の学習をテストまでにと、入試までに行わなければならないという、決まった中で使っていく余裕というか、効果的に使っていく結びつきというところが、まだ十分なされていないのかなと思います。

私、教科は英語なのですが、1年生のときには単純に選択肢を選んで答えが出るようなものであれば非常にこういうものは効果的だと思うのですが、思考力を伴う授業への結びつきを高校3年生の中でどう展開するのかは課題だと考えています。

【稲垣会長】

今のコメントは、例えば、思考力あるいは表現力を育てるような授業に対して ICT がうまく使えてないということかもしれませんし、受験の中で求められているのかどうかみたいな話だったり。ドリル教材的なものは確かにありますが、実際、高校3年生は受験勉強の中で ICT をたくさん使っていますよね。彼らの生活の中では使っているのだけれども、そこで使っているような学習の仕方と、学校の中での学習の仕方が、ちょっとずれが生じてしまっている。もしかしたらそうなのかなと思います。その辺のところ、受験だから下がる、使わない、という先生は確かに多いとは思いますが、受験で子供たちは当たり前に使っていますよということを教えていただけたらいいのかなと思います。

それでは、続いて、報告事項2（5）に進みたいと思います。事務局お願いします。

④学校教育情報化推進について

【事務局_太田教育指導課情報化推進係指導主事】

内容といたしましては、1つ目は、STEAM Lab 実証研究について、2つ目は、GIGA コミュニティサポートについて説明いたします。

3ページ目をご覧ください。STEAM Lab の実証研究は、「仙台市学校情報化推進計画」の行動計画の中で、ICT を活用するための環境整備について検証するために、2年間実施して参りました。また、学校での STEAM 教育推進を目的として、宮城教育大学、ダイワボウ情報システム株式会社との共同実証研究として取り組んで参りました。同一中学校区の川平小学校と中山中学校を実証研究の対象校として、高性能 PC、レーザーカッター、3D プリンター、2画面プロジェクターなどの ICT 機器の環境整備を進め、授業等における利活用の可能性を2年間の実証研究をして参りました。

4ページをご覧ください。今年度、中山中学校の3年生は中山商店街と連携して、商店街の活性化を図る目的で、商店街22店舗を紹介する CM コンテストを行いました。STEAM Lab の高性能 PC を活用して、動画編集をしたり、2画面プロジェクターを活用して試写会を行ったりして、CM 制作を行いました。制作した CM は YouTube にアップされ、地域住民や保護者が優秀作品を選抜するコンテストが開催されました。最優秀に選ばれた作品は「レストラン KAYA」というお店の CM でした。これが、その CM です。

《動画視聴》

商店街への取材から動画の編集まで、22 グループに分かれた中学生がすべて考え CM を作成しました。続いて5ページ目をご覧ください。川平小学校では、「自ら考え、進んで伝えることができる子供の育成」を研究主題とした校内研究で、全学年が積極的に ICT 機器を活用する取組を行いました。5年生を対象に、修学旅行のまとめを報告する6年生の授業では、2画面プロジェクターを活用したり、3Dプリンターで思い出を紹介するメダルを作成したりして、参加者に配布するなど、ICT機器を活用した取組を行っていました。また、他の学年でも、授業の中でChromebookを積極的に活用したり、プログラミングしたアーテックロボ2.0を活用したりするなど、STEAM Labの機器を活用していました。

6ページをご覧ください。STEAM Labの実証研究としての各学校の取り組みから、ICT機器の授業利用の有効性を検証した結果、このように考えられます。レーザーカッター、3Dプリンター、デジタルミシンは成果物を作成するのに少し時間がかかってしまうことから、普段の授業における活用はなかなか難しい部分があることが分かりました。一方、高性能PCや2画面プロジェクター、STEAM Lab内の机や椅子などの環境設備は、授業によって有効に活用する場面があることが、検証できました。昨年末に、宮城教育大学の板垣先生と研究室の学生から、中山中学校の総合文化部に対し、360度VR動画を作成する研修をしていただきました。研修後、生徒を対象に行った宮城教育大学のアンケート結果からも、高性能PCを活用したVR動画作成に高い関心度が見られ、とても良い結果が得られております。

7ページをご覧ください。本実証研究の今後の方向性については、ダイワボウ情報システム株式会社からの機器のサポートが終了することも踏まえ、現在検討しているところです。今後も、教育センターと連携支援を継続しながら、仙台市内の学校により有効性の高いICT環境を構築することを目的に、研究対象校とも協議しながら、本実証研究の方向性を検討して参ります。

【事務局_野地教育指導課情報化推進係指導主事】

続いて、「GIGA コミュニティサポート」についてです。

9ページをご覧ください。「GIGA コミュニティサポート」は、仙台市内の教員がチャットを利用し互いに情報交換を行いながら、ICT教育の好事例創出や展開を進め、教員同士のコミュニティーを広げる「GIGA ラボ」が1つとなっております。もう1つは、Gメールを活用した教員と指導主事をつなぐ相談窓口であり、授業でのICT活用で悩んだことがあったら、いつでも相談できるICTカフェ「ぴったん」となっております。

10ページをご覧ください。「GIGA ラボ」は、当初の目標値であった50名を上回り、61名となっております。様々な情報交換がなされ、取り上げる事例も8例に上ります。

11ページをご覧ください。「GIGA ラボ」の様子を紹介いたします。1つ目は、ロイロノートの共有機能の効果的な使い方を知りたいという話題がありました。こちらについては、研究授業の事後検討会や年度末反省会での話し合いに活用するなど、様々な情報交換がありました。

12ページをご覧ください。2つ目は、児童生徒が書き込んだ、ロイロノートのワークシートを綺麗に整理したいという悩みが挙げられました。そこで、提出箱を使って、日ごとに整理する方法を情報共有し、実践することができました。

13ページをご覧ください。ICTカフェ「ぴったん」は、当初の目標値10件でしたが、現在は5件となっております。

14ページをご覧ください。こちらは、ICTカフェ「ぴったん」の質問内容をまとめた表です。質問者の多くは、小学校教員からの利用でした。質問を投稿した教員に、利用についてどのように感じているか聞いたところ、最初は教育委員会に直接メールを送るのは大丈夫だろうかという不安があったというお話がありました。活用の推進だけでなく、気軽に相談できる相手を求めていることが分かりました。今後の運営について検討が必要であると考えております。

15ページをご覧ください。年度末で成果、課題、改善策でまとめた表です。「GIGA ラボ」については、多くの教員が参加し、意見を交換することで、各校の実践の参考になりました。課題としては、授業展開と、多様な題材に回答できる人材の育成が必要であるということが分かりました。改善策としては、テーマを細かく設定し、参加の声かけを進めていくことが必要であると考えております。ICTカフェ「ぴったん」については、質問できる内容を精査し、学校の課題解決に繋がる内容にすることが必要ではないかと検討しているところです。

【稲垣会長】

STEAM Lab の話も出てきましたので、板垣委員から何か補足説明はございますでしょうか。

【板垣委員】

私と学生とで中山中学校へお邪魔して、12月の冬休みに入ったタイミングの午前中に、2日間実施しました。部活等に所属している1日目17人、2日目は、15人の生徒に参加をしてもらいました。2日間も参加してくれた人も5人いました。せっかく入っている高性能なデスクトップのコンピュータを使って、3Dのオブジェクトを作ってみたり、それを360度動画にしてみたりというようなワークショップをやらせていただきました。もともとそういう部活動に所属している生徒さんたちということも多少あるかと思いますが、アンケート調査の結果からいうと「VR動画の制作が楽しいと思う。」とか、「実際に手順書があれば、VRコンテンツを作ることができた。」とか、活動見ている、結果からも言えて、2日間、両方とも参加してくれた方は1日だけの参加の人よりも、「自分でオリジナルのコンテンツを作ることができた。」という話もあって、半日だけのワークショップでもある程度のことができるようになり、2日間とか、時間をより多くとるともっといろんなことができるようになる、ということで、中学生でも、色々なことができる可能性がある、そういうSTEAM Labの環境だったということは、1つ、我々の手応えとしても感じているところです。あと、色々作ることができるというところから、探究的な問題解決に取り組むところだと、もう少し時間がかかると思うんですが、色々な機材が入っていて、全部の機材を全員の生徒が使えるようになるというような話ではなくてもいいと思っています。自分が取り組んでいる課題だったり、テーマだったり、やりたいことだったり、見つけた問題だったりってものに依じて、機材があって、必要感を持って実際に使ってみるとか、使い方を学んで活用してみることができるだけでも十分じゃないかと思っています。色々な機材が整っている環境があることの意味や実際に使われていることの成果は我々としても感じています。

【稲垣会長】

VRゴーグルだけの有効性で言うと高い評価ではなかったけれども、コンテンツ作ったり、学習機会を作ったりすることでうまく使える可能性が見えてきたかなとは思っています。2校だけの話でしかないので、今後どうするかということに関してはぜひ考えていただきたいですし、板垣委員がコメントされたように、一斉にみんなが同じものを使ってやるみたいな話ではないと思います。そう考えると、同じ場所に機材を固めて置いておく必要もあんまりないかもしれません。分散配置してみたり、色々なやり方を工夫することで、様々な子供たちの学習機会を提供できるといいのかなと思います。

「GIGAコミュニティサポート」の話に関しては、「GIGAラボ」のチャットがある程度進んでいるという話がありましたが、可能であれば、チャットの画面をスクショして載せといていただいた方が、実際のやりとりの様子がより伝わると思います。そうすると、それを見て、安心して私も書いてみようといった良いフィードバックが回る形にして出していただけるといいのかなとは思っています。また、やはりメールは若干ハードルが高いのかなという気はしなくはないのですが、その辺りはいかがですか。

【事務局_野地教育指導課情報化推進係指導主事】

今年度は、とりあえずやってみようという形で始めたということもありまして、稲垣会長がおっしゃったように、やはり少しハードルが高いところもあり、来年についてはもう少し色々な形で検討、周知の仕方を考えていきたいなと思っています。

【稲垣会長】

ぜひよろしく願います。こういうところを多分サポートで生成AIを使うのは、やりようによってはかなり有効な可能性もあると思いますので、そんな可能性も含めてね、考えていただければいいのかなと思います。

それでは、続いて協議に入っていきたいと思っています。協議事項3（1）仙台市学校教育情報化推進計画令和7年度の行動計画案について、事務局から説明をお願いします。

（3）協議事項

①「仙台市学校教育情報化推進計画（令和5～9年度） 令和7年度行動計画（案）」について

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

令和7年度の行動計画案についてご説明いたします。この場では、主要な項目についてピックアップ

した形で説明させていただきますが、全体につきましては、令和6年度の行動計画をベースに、先ほどもご説明しました通り、すでに目標達成していると考えている項目を削除し、生成AIに関する新たな項目を追加したものとなっております。令和7年度行動計画案の詳細につきましては、「参考4」として共有しておりますので、後程ご覧いただければと思います。

2ページ目をご覧ください。令和7年度行動計画における端末活用目標の案でございます。これまで、1日1～3回程度など、端末活用の回数を目標として設定しておりましたが、1人1台端末の導入から間もなく4年となりまして、ある程度活用が進んできたことや、前回までの協議会の中でも、単純な回数を増やすことが目的ではないといったような議論もございましたことから、端末の活用方法や活用場面について考慮した目標を定めることが必要と考えました。そこで、文部科学省で設定している教育DXに係る当面のKPIというのを参考にいたしまして、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」に関する目標達成度を本市の令和7年度末活用目標に設定したいと考えております。スライドに示している通り、「児童生徒が調べる場面」「児童生徒の考えをまとめて発表・表現する場面」「教職員と児童のやりとりの場面」「児童生徒同士のやりとりの場面」「児童生徒が自分の特性や理解度進度に合わせて課題に取り組む場面」の5つの場面における活用について、それぞれ週3回以上活用している学校の率を指標として設定し、文部科学省においては、令和8年度までに、「調べる場面」の項目については100%、それ以外の4項目については80%というのを目標としております。令和6年度現状と書いてある欄に示しているのが、令和6年4月に実施した、令和6年度全国学力学習状況調査の仙台市分の結果となっております。現状、令和8年度の目標達成している項目はございませんが、小学校においては、令和8年度目標に近い数値となっているものもございます。令和7年度の本市の目標としては、現状の数値と、令和8年度目標の中間となる数値を設定しております。以上のことを踏まえ、様々な場面における端末活用の推進に取り組んで参りたいと考えております。

3ページをご覧ください。ここからは、「学校情報化推進計画」の4つの基本方針に基づき、令和7年度に各学校・教育委員会で取り組むべきと考える行動計画のうち、重点的に取り組む項目についてピックアップしてご説明いたします。先ほど紹介した「参考4 令和7年度行動計画案」には、各学校が実施しやすく、評価が行いやすいように、多少具体的な記述を行っておりますが、この場では、概要を説明させていただきます。

「基本方針1」に関しましては、端末活用目標に関連した内容となっております。学校の達成目標としては、効果的な活用方法として、これまでに蓄積された授業実践を積極的に取り入れ、様々な場面における活用を積極的に推進すること、また、授業支援ソフトウェアを活用し、児童生徒同士の対話や考え方の共有などを取り入れた授業を行うことを目標としております。教育委員会としては、学校がこれらの実践を行うにあたり、サポートを積極的に行って参りたいと考えております。

4ページをご覧ください。「基本方針2」のICT活用指導力を高めるための取組としましては、学校の達成目標を、校内研修等を通じて、教員同士の学びの機会を提供すること。また、生成AI研修の受講を推奨し、教員の生成AI活用の推進を図ることを目標としております。教育委員会では、研修体系図等を活用し、教員のスキルの変容や、現状を把握するサポートを行うとともに、研修内容の充実や改善に取り組んで参ります。また、研修や実践事例の紹介を通して、教員の日常的な生成AI活用を支援して参ります。

5ページ目をご覧ください。「基本方針3」のICTを活用するための環境整備につきましては、環境整備に特化したものであるため、教育委員会の取り組みのみとしております。昨年度も、ネットワーク強化を行ったところですが、引き続き、1人1台端末や授業支援ソフトウェア等を快適に利活用できるよう、ネットワーク強化の効果を検証し、安定的な運用に向けた整備をさらに行って参ります。また、デジタルドリルや授業支援ソフトウェア等の学習履歴や校務支援システムのダッシュボードなど、蓄積された教育データを利活用するための事例周知などを通じ、支援を行って参ります。

6ページをご覧ください。「基本方針4」の学校情報化推進とICT活用の推進体制に関して、学校の取組としては、ICTを活用した授業実践などの情報を、積極的に職員会議等を通じて周知することで、授業改善に意欲のある教員のサポートを学校全体として行うこと。また、保護者会等を活用し、GIGAスクール構想に関する取組を紹介し、保護者の理解や関心を高める取組を実践すること、といったしました。教育委員会の取組としては、効果的な授業実践事例等を収集、周知することで、学校の取組をサポート

ートするとともに、学校における保護者向けの取組について、情報提供などを行い積極的にサポートして参ります。

7ページをご覧ください。最後に参考として、令和7年度以降の進め方についてまとめたものでございます。以前の協議会の議論の中でも、毎年の行動計画だけではなく、「学校教育情報化推進計画」の計画期間である令和9年度に向けた見通し、展望というものを考える必要があるのではないかとのご意見をいただいたところでもございました。今後、世の中の情勢の変化や、文部科学省の方針など、様々な要因で変化することも考えられますが、現時点で令和9年度までの大まかな取組の方向性とステップについてまとめました。例えば、一番上の情報活用能力の育成に関しては、右端にあるように、令和9年度において、児童生徒が学びに ICT を活用できるスキルを身につけていることをゴールとして、端末を活用した授業実践から、対話や考え方の共有など様々な場面における端末活用の推進、教科等横断的な学習を取り入れるなど、段階的なスキル向上を推進して参ります。同様に、生成 AI 活用については、すべての教員が日常的に生成 AI を活用できるスキルを身につけること、校務 DX については、教職員の働きやすさや業務の軽減、教員研修については、それぞれの教員が ICT を授業で活用できるスキルを身につけることを、それぞれ令和9年度のゴールとして、各種取組を進めるとともに、令和8年度、令和9年度における行動計画にも反映して参ります。

以上で令和7年度行動計画案と、9年度までの見通しについての説明を終わります。

【稲垣会長】

行動計画案となつてございますので、これについて皆さんからご意見いただいた上で、要望として処理していければと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。結構大きい変化があったと思いますけれども、例えば端末の活用のところが頻度の話から、どう使うかということに大きく変わってきました。ここはかなり大きい変化かなと思うのですけれども、中学校の委員の方いらっしゃる中ですが、上から4つ目の児童生徒同士のやりとりのところ、ここは、中学校は現状 34.4%を来年度 55%にと、20ポイント上げなきゃいけないので、かなり大変な設定だとは思うのですね。おそらくこの部分に関しては、中学校の重点目標みたいな形で、強力に推進していく必要があるのではないかなと思います。ここは先ほど板垣委員がおっしゃっていたような汎用的な使い方が進んでいないのではないかっていう指摘がありました。この話と裏表の関係だと思うのですね。汎用的な使い方はやはりどちらかというと子供同士がお互いを見せ合ったりとか、同時に編集したりとか、特定のアプリを使うというよりも汎用的なもので日常的にやっていく中で使われるものなので、どう進めていくのかに関しては、教育委員会あるいは教育センターでうまく進められるよう工夫していただくといいかなと思います。せっかくなので、目標を下げることなく頑張りたいなと思っております。次のスライドのところで、学習のための ICT 活用として、学校の達成目標出しているわけですが、ここに中学校で、対話で使うことは大事なのだということを明確に書いておいた方がいいのではないかなと思います。例えば管理職の研修の際にそういった話をさせていただくであるとか、そういったことも含めてしっかり進めていただければというふうには思いました。

【千葉委員】

保護者としても、子供たちの目標といいますか、重点ポイントがどんどん変わっていつている状況を、ほとんどの方が知らないっていうところで、私たちは子供を育てていく上で、一緒に親も学んでいかなければいけないと思うのですけれども、だんだんと距離が広がっていつている感じがしています。私たちは何を学んでいけばいいのかなというのが漠然としたところなのですけれども。GIGA スクールというのは先ほどの資料でも、保護者の周知度が 95%ぐらいに上がっているというところで、皆さん気にはかけてはいるけれども、その中身、これからどういう方向に向かっていくのが分からないというところがあるので、保護者もどんどん巻き込んでいただいて、情報をお示しいただけると、私たちも子供との繋がりをもっと考えていく機会が増えるのではないかなと思います。

【稲垣会長】

保護者の方が世代的に見たときに、今の GIGA みたいな使い方っていうのを日常でやっておられるかって言うと、あんまりやっておられない。もちろん企業で、色々仕事されている中では活用する方もいらっしゃるのですけれども、そうじゃない形になると、小中高でも経験がなく、お子さんだけ何か違うことやっているみたいな。これは仙台市に限らず、全国で問題だと。今年度も私の方でも大学院生と一

緒に保護者向けのGIGAスクールの学習会を何回かやらせていただいたのですけれども、そういったものを企画してもそんなにたくさん来てくださるわけじゃないのですが、PTA行事としてやってみたりとか、多くの方が参加できるような機会を作ってやっていくことを推進するっていうのを、教育委員会としてというよりも、どこかの学校でとか、広くそういったことをやっていく必要があるのかなと思います。例えば、この行動計画に関しても、保護者が見たことあるかと、おそらくそこはかなり少ないのではないかなと思います。そして、見たとしても、これって何、という話にどうしてもなってしまう。そのところの理解をどう深めていくのかは、非常に大きな問題として考えていく必要があるのかなと思います。

【亀井委員】

今お話をいただいたように、保護者の中で周知していくとしたときに、先生方もそうなのかもしれませんけれども、我々の年代と今の私達の子供たちの年代で、頻度であるとか、使う用途がもう、日々変わってきていると。私も中学校のPTA活動の中で、今までは子供たちのためにと言いながら、大人が考えているだけで、子供たちの話を聞いてみることをなかなかしないなという思いはあります。生徒会とか、代表的な子供たちと少し触れ合う機会を作りたいということで、少しずつですけども、そういった行動をしていきたいなと思っていました。実際に使う子供たちの思いや、先生から授業で使ってみてどう思ったか、ということは、何かの形で聞いてみる機会があってもいいのかなと思いました。

あとは、展望や目標の中で、非常に大きく書かれている部分がありつつ、現場の先生方が、まずこれやってみればいいのねという、何か1個だけで、その1個が決して正解でなくてもいいと思うのですが、極論から言えば6月はチャット強化月間で先生方の会話をチャットでなるべくやってみましょうとか、それでもいいと思うのです。先ほど、先生方のサポートの部分でもお話がありましたが、他の方がこういった内容を見て勉強するということもあると思います。ですので、一対一でメールをやると非常にハードルが高くて、私なんか、どちらかというと先生とか、会社の上司とかに一対一でやるときって相当腹据えて準備してやりますけども、色々な人が話している中をパースと見て、こういうこと言ってもいいのだなとか、これ聞いたかったことだな、というのが分かるような、あえてそういうものを作られて、そこに隙を作るといいますか、サクラでもいいと思うのです。こんなこと聞きたいのだろうなと思っていることをポンと投げといていただくと、そうじゃないことを、例えば返してくる、もしくは見ている人がいっぱいいる、それがオープンになっているということで、安心して積極的に参加はしなくても見るみたいなこともあるのかな、と思っていました。現場の先生が、ここを頑張ってくださいと言われて、何かを一生懸命考えることもすごい大変なのだろうなと感じている部分もありました。

【稲垣会長】

保護者の立場、あるいはPTAとして、どういうふうに推進していくかはなかなか難しく、先ほど、子供の意見を聞いてみるという話ありましたが、一時期、一部の学校で、子供たちが端末を使ってこんなふうに探究したよというのをプレゼンしてもらう大会をやっている学校があったのですが、端末を使うことで、こんなことができるのだということを、子供の姿で伝えていくことはすごく大事なかなと思います。こういう議論って、先生側の視点ばかりの話になっていて、実際子供はこう変わってきているんだ、こんなことができるんだという話は見えてないのではないかなと思います。例えば、活用事例を載せることは大事ですが、どちらかというと、先生の活用事例ですね。子供が端末を使っているにしても、先生が、こういう意図でやっていますという内容がある一方で、こういうことやっている子供たちいるよ、すごいよねという話も、もっとピックアップできるような機会がうまくつくれるといいんじゃないかなとは思いました。

後半の話で今後の展望の話についてもご意見いただきましたが、どちらかというと、今のこの話は、先生方に頑張ってねリストになっているところあって、一方で、教育委員会としてこういうことやっているから、期待してねと言えるかどうかわかりませんけれども、この辺り、せっかく行動計画に関しては、委員会としてやることと、学校現場がやることに分けて書いてくださっているの、教育委員会ではこういうことやっているの、学校としては特にこの辺りを見据えてやってくださいという形で整理していただけると、より学校現場としては取り組みやすいのではないかなと思います。例えば、情報活用能力の育成の話で言ったら、目標リストを見直す話が次年度やられる話だったと思いますし、生成AIに関してはガイドラインを変更するのはどちらかというとこれ教育委員会ですね。全部学校現場

で降ってくるのかって思われるとちょっと、となってしまうと思いますので、その辺りを整理した上で出していただけるといいかなと思います。

それでは、続いて協議事項2に進められればと思います。事務局よろしくお願いします。

②「全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び」

【事務局_大黒教育指導課教育課程係主任指導主事】

「資料7」をご覧ください。「すべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び」ということをご説明させていただきます。前回、「個別最適な学び」が見えづらいとのご意見がございましたので、今回は「個別最適な学び」を中心にお話をさせていただきます。

まず、学校教育についてですが、これまで子供たちの知徳体を一体で育む学校教育が行われてきております。ただ、その中で、コロナ禍等もございましたが、予測困難な時代に入っていること、Society5.0時代とも言われております。そういった時代の流れに鑑みまして、これまでの教育のよさを受け継ぎ、新しい時代に向けた学校教育の実現が必要であるということでございます。その中で、これからの学校教育ということが大切かと申しますと、すべての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実」し、「主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」につなげること。授業改善のみではなく、授業外の「学習改善」もしていくことで、子供たちの資質能力の育成をしていくことでございます。また、ここで「個別最適な学び」と出ておりますが、ポイントとなってくるものは、子供が自己調整をしながら学習を進めていく力を身に付けていくこと。そのためのポイントといたしましては、「指導の個別化」と「学習の個性化」が挙げられます。その中で、ICTの活用について、基本的な考えといたしましては、学校教育の基盤的なツールとしてICTは必要不可欠であること、また、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせしていくこと、その組み合わせについて考えていくことが大切でございます。

では、具体的に「個別最適な学び」とICTの活用について、どういったものかといいますと、「個別最適な学び」といたしましては、例えば、見通しと振り返りの設定をすることや、個に応じた教材の提供、個に応じた学習活動及び学びを深める学習活動の設定、個に応じた学習課題に取り組む機会の提供及び学習環境の整備等が挙げられております。その中で、どういった場面でICTの活用が考えられるかというところで、これもそれぞれ挙げられております。例えば、学習履歴をデータ化し蓄積すること、デジタル教材を提供すること、ドリル教材の活用やインターネットでの調べる活動を取り入れること、情報の検索データの処理や視覚化レポートの作成等でございます。「協働的な学び」につきましては、本日は割愛させていただきますが、資料にございますので、後程ご確認いただければと思います。

では、具体的に市内の学校ではどういった取り組みが行われているかというところで、書写の時間、これは1時間ではなく、単元での話になりますが、紹介させていただきます。「個別最適な学び」といたしまして活用されていた機器は、ロイロノートでございました。学習の個性化、見通しと振り返りの設定を担うところとして、書写の時間の学習の記録、学習履歴を蓄積するものとして使われておりました。写真に載っているのが、蓄積している個人の学習履歴でございます。この中には、自分が前回書いた作品、手本、ポイントを示す動画、自分で気づいたこと等が、1つの画面に映るようになってございます。これを毎回蓄積することによって、子供たちは自分の学び方、あるいは自分の変化に気づくことができるようになってございます。また、個人個人が作った学習履歴を蓄積するとともに、共有することも行っておりました。共有することによって、自他の学びを参考に、自身の学びを深めることにつなげておりました。1時間で作品を書くわけですが、次の時間、あるいは次の作品を書くに当たり、子供たちは自分のその学習履歴を振り返りながら、また、他者の学習履歴を見ながら、自分に必要なところを参考にし、次の作品作成に取りかかってございました。ここで1つポイントとなるのが、先生が、例えば自分が前に書いた作品を見なさいとか、他者の作品や気づきを見なさいと声がけし、子供たちが活動したのではなく、子供たち自身で蓄積された自他の学習履歴から、自分に必要な資料をもとに次に取り組んでいたところでございます。

授業後の児童の声といたしましては、「自分の上達を実感できる。」「自分の課題が明確になった。」「自分のペースで進められる。」といった声が、また、教師からは、「児童が学びを実感し、自分の課

題に合わせて活動に取り組む姿、取り組み方が見られるようになった。」「他の教科でも取り入れていきたい。」とございました。こういった「個別最適な学び」の取組を、本市他の学校にも、さらに広めていくとともに、次期学習指導要領についても、情報が出てきておりますので、それを踏まえ、「個別最適な学び」に繋がるものにはどういったものがあるか、というところを今後考えて参りたいと存じます。

【稲垣会長】

「個別最適な学び」の話が出てきましたけれども、実際、学校現場ではどうやっておられるのか、お話し伺っても良いでしょうか。

【高橋委員】

この間、5年生の社会科の授業の中で、伝統的な工業を、今こんなふうに行っているという学習の中で、教科書に出てきた事例について、先生がそれぞれの資料をロイロノートなどで準備して、自分が調べたいことを選んで調べて、調べたことをみんなで共有して、伝統的な工業の工夫や共通する部分は何かなということを考えてまとめる授業は見ました。

【稲垣会長】

かなり近い感じかなという印象がしますが、「学習の個性化」の方に少し寄せた感じで、子供たちの興味関心に応じて取り組み、協働的な学びにつなげるという事例の1つかなと思います。今出てきているスライドの内容は、中教審で言うところの令和3年のときの答申に基づいた話です。つまり、もう4年前の話でもあります。4年前の話をようやく仙台市で議論できるようになってきたという状況です。これは大分危機的な状況だと思っております。例えば宮城県では、すでにモデル事業の実施が終わり、それをどう普及するかという段階で頑張っている状況です。仙台市に関してはこの辺りについて、モデルケースがあるよとか、こういうふうに推進しているよとか、その辺りの発信が止まっている状況なのですね。先ほど書写の授業の事例をご紹介いただきましたけれども、これも「指導の個別化」の取組になるのです。基本的には、ゴールが一緒でやり方がいろいろ違っていたりとか、ペースが違うっているのは「指導の個別化」の話で、これ多分読むという漢字を書くという目標は一緒ですね。この場合、基本的な「指導の個別化」の範疇に入ると思います。そういったことの理解も含めて、もう少し教育委員会で、必要なことを重点的にやっていく必要があるのではないかなと思っています。ここまでのいろんな議論の中で、個別化の話が少ないよと、前回の会議のときにご指摘させていただきましたけれども、その話で必ず全国の学校現場で話題になっているのが授業観・学習観をどう変えていくかって話なのですね。GIGAスクール構想が始まった当初は、従来のやり方のいいところと、ICTのいいところを組み合わせでベストミックスでやっていくのだったという、そういう言い方がすごくよく言われていました。ただ、その段階も過ぎておまして、どちらかというとデジタル学習基盤と最初にお話しましたが、新しい環境がもう当たり前になった中で、これまでできなかったような授業に踏み出していく。そういった状況になりつつあります。それはICTのためにやっているわけではなく、仙台市では不登校の子供たちがたくさんいますけれども、一人一人の子供たちが多様になってきている中で、従来の授業のやり方では難しくなっている。そういった中で、ICTを上手に道具としてうまく使いながら、多様な言葉自身に答えられるような授業に変えていくというメッセージが大事になってきている状況です。これが次の学習指導要領のベースになってきますので、ぜひ議論を進めていただけるといいかなというふうには思います。

【板垣委員】

このお話のところで最後に、他の教科でも取り入れていきたいと書いてありますが、今回は書写を題材にしていますが、例えば目標を決めて取り組んで振り返ってみたい話は、どの教科、単元にも共通すると思っています。先ほどの汎用的なところと重なってくると思いますが、授業だけを変えるという話でもなくて、先ほどチャット強化月間みたいな話もありましたけど、学校全体で取り組むというのが1つあるかなと思っておりました。例えば、その先生方が校務で使うところから着手するという話も、例えば、1人の先生だけが使っていても学校の中の業務としては変わらなくて、みんなで使うから、そのよさが出てくるところが大きいと思っています。リーディングDXスクールじゃないですけど、どの学校でも力を入れて取り組むべきではあるのですが、その中でも重点的にモデル校みたいな形で参考になる学校が1つあると、それを全市展開しようとしたときに、あの学校をまねすればいいな、みたいなそういう仕組みがあるといいのかなと思っていました。

【稲垣会長】

例えば、中学校の「協働的な学び」が足りないという話がありましたけども、例えばそれをすごく頑張って何とか実現するっていうことと、「個別最適な学び」のために授業改善するって、だいぶ違うことやらないといけないのですよね。それを、1つとか、同時並行で進めてくださいってのは、かなり無理がある状況にはなっております。そういうふうにと考えるとやっぱり学校ごとに、どこを重点化するのか、その上で仙台市としては、特にこの学校をモデルにしてやって欲しいであるとか、きっと頑張っておられる学校あると思うのですね。そういったところをうまく応援しながら進めていっていただけると良いのではないかなというふうに思っております。

最後、何か皆さんの中で言い残したことがあればお伺いしますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、協議につきましては、ここまでにしたいと思います。

(4) 事務局挨拶

【事務局_岩城副教育長】

一言ご挨拶申し上げます。稲垣会長はじめ委員の皆様、御多用のところ1年間ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。今年度も、本市のICTに関するGIGAの協議会議で取組の状況をご説明させていただきながら、本日も新年度の行動計画の案について、お示しさせていただきましたけれども、様々なご意見をちょうだいいたしました。これからの取組に最大限生かして、本市の取組を進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

振り返りまして、日々、技術革新の分野、ICT、情報技術、毎日のように新聞に載っております。功罪と言いますか、色々な側面での話が載っております。そうした中でも、今この時代を生きる子供たちが、こういう社会環境に適用していく。さらには、10年後、20年後、30年後、仙台なり日本を背負って立つ子供たちが生きていく社会がどのように変わっていくか、おそらく、今以上にもっと変化のスピードは加速度を増していくと思います。そうしたときに、生きていく子供たちが、今現在、学校でどういう学びをして、どういう力を身につけていくべきか、これはある意味、我々としても想像しながら進めていくことがありますけれども、この協議会の場でも皆さんにお考えもいただきながら、その目指すべき方向に向かって子供たちを育てていく、学べる環境を整えていくことが大事だと思っております。我々自身の考え方もすでにアップデートさせながら、より良い学習環境を提供できる学校現場、先生方の研修も含めてですけども、教育環境を整えることが大事かと考えてございます。

色々と考えていくことは多いということでございますけども、ただ、そういう未来を支える子供たちのために、何が今時点できるか、もしかしたら、すぐにはできないかもしれないけれども、我々はこのことを目指していますよ、それを学校現場の先生方、市P協の方々、保護者の方々とも共有しながら、教育委員会としましては引き続き学校現場の先生方、それから学校への支援をして参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いしたいと思います。今年度は誠にありがとうございました。